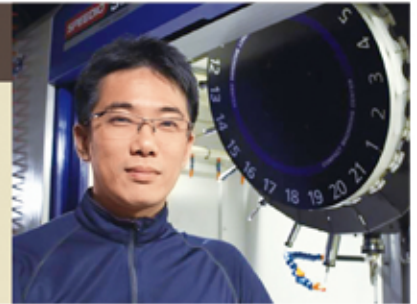


株式会社大昭精機工作所

“小さな部品に全身全霊!” ~極めた技術で魅せる「ものづくり」~

- ①私達はお客様の製品の極めて高い安全性と安心の提供に貢献します
- ②私達はお客様の要望に Just In Time で答えます。
- ③私達はより多くの企業や個人のお困り事に技術で答えます
- ④私達は一人一人が日々研鑽し誇りを持って「日本のものづくり」を突き進みます



社 名：株式会社大昭精機工作所
住 所：神戸市兵庫区駅前通5丁目1-11
役 職：代表取締役
氏 名：多胡 優樹
所 属：東神戸支部
同友会入会：2017年7月

■事業内容及び企業の沿革

事業内容

鉄道ブレーキや船舶エンジンの部品製造

沿革

初代青木幸次が、1948年10月に創業(2020年10月で創業72年)。

創業当初より旋盤加工をメインとして受注するが、協力業者とともに多種多様な製品に対応出来る事を「強み」として事業展開していった。

昨年、売上の10%を占めていた取引先からの注文が減少した影響で前期は過去最悪の赤字計上となったが、ここであえて正社員2名増強し、現在は役員2名、正社員5名及びアルバイト1名の8名体制として今後挽回していく。

■経営理念成文化のきっかけ

初代の頃より経営理念というものが概念的なものしかなく、同友会入会前に紹介者より貰った月間行事の案内にあった経営指針オープンセミナーの記事に興味を持ち、参加を決定。そして、同セミナーで丸山先生の話をお聞きしたところ、「これは作らなければならない!」と考え、即日入会と経営指針づくり勉強会に申し込む。

■経営理念成文化の過程

作成過程で特に印象的だったのは、お客様へヒアリングをした事。自社の強みを異なる視点から客観的に捉えることで、お客様が取引先に求めている要望等が理解できたため、自社の目指す方向性が見えてきた。そして、外部環境や自社環境分析、SWOT分析を通じて自社の置かれている環境を見直す事が出来、強化していくべき所がはっきりした。その後、これまでの宿題を元に数値計画を練り直し、数値計画を達成する為の道筋、方針、重点課題を策定しそれが元々持っていた経営理念の概念と整合しているかを考察した後、文字として書き出し、更にブラッシュアップして完成となった。

■経営理念への想い

経営指針成文化セミナーを通して経営理念を文字とする重要性を学び、実際に経営指針書という形で作成した事で社員一人一人がどんな行動をしてどこに向かっていけば良いのかという事を理解していった。そして、会社として同じ方向に目を向け成長していく足掛かりができたのではないかと思っている。

■これからの夢・抱負

ゆくゆくは(5年後くらいには)、現在よりも広い敷地に工場を移転したいと語る多胡さん。社員と共にこれからもチャレンジする姿は自信に溢れていた。



工場風景



会社風景